

大分県立先哲史料館の防災教育 「おおいたの地震と津波」



大分県立先哲史料館
主幹研究員 今井 貴弘

1 はじめに

大分県立先哲史料館では、教育普及業務として平成11年度より県にゆかりの先哲の人物像などについて県内の小・中・高等学校を訪問して紹介する講座（子ども先哲・歴史講座）を実施しています。平成26年度からは、この講座のメニューに過去に県内に大きな被害もたらした地震・津波の歴史から防災・減災について学ぶ「防災教育『おおいたの地震と津波』」を加え、防災教育にも取り組みはじめ、今年度10年目を迎えました。

2 講座の取組み

防災教育は学校からのリクエストにより、主に社会科や総合的な学習の時間の授業で行われることが多いですが、学校によっては防災避難訓練などの行事の一環として取り組んでいるところもあります。地域的に見ると、過去に南海トラフを震源域とする地震・津波により甚大な被害を受けた県南部の佐伯市や臼杵市の小中学校からの依頼が多く、これらの地域の防災意識の高さを窺うことができます。

講座は、当館の職員が地域や学校、学年などに応じて作成したプレゼンテーション用スライドと当館で作成したパンフレット「おおいたの地震と津波」を用いて行っており、①「地震や津波が起きるしくみ」、②「大分県に大きな被害をもたらした過去の地震・津波」、③「地震や津波がおそってきたら」の内容で展開しています。

①では、導入として近年国内及び県内で発生した地震を思い出し、その際の気持ちや行動を振り返りながら地震・津波に関して学ぶ意識



防災講座の様子

を高めてから内容に入ります。内容としては気象庁や県ホームページの資料をもとに地震や津波が発生するメカニズムを解説しながら、時に地震や津波のあれこれ（マグニチュードと震度の違いや津波のスピードなど）についてクイズ形式で出題して子どもたちの興味や関心を喚起するよう努めています。

②では、近世に大分県で発生した3つの地震（慶長豊後地震（1596）・宝永地震（1707）・安政地震（1854））に関して、地域に残された古文書や絵図などを教材の中心にして解説していきます。中学校で実施する講座では子どもたちと一緒に（簡単な）古文書の解読を進め、津波の高さ（遡上高）や被害地域の広さなどを紹介します。その際用いる古文書や絵図はなるべく講座実施校近くの様子が分かるものにするのを心懸けています。自分たちに馴染みのある地名や寺社などの被害の様子が分かることで、子どもたちが地震・津波の被害の大きさや恐ろしさをより実感できるように工夫しています。また単に被害状況を解説す

2. 大分県に大きな被害をもたらした昔の地震・津波について
ここでは、3つの地震を紹介します。

- ①慶長元年(1596)の地震→「慶長地震」
- ②宝永4年(1707)の地震→「宝永地震」
- ③安政元年(1854)の地震→「安政地震」

①慶長地震(慶長元年(1596))

別府湾を震源とする地震(M7.0~7.8?) ⇒ 別府湾沿岸に大津波

◎ルイス・フロイスの報告

「…津波が押し寄せたとき、沖ノ浜(大分市)の村には何一つ残りませんでした。」

◎玄寺日記

「…かみの関という浦里が大波にひかれて、家やかまどもなくなり、命を失った者も数がわかりません。哀れなことです…」

防災講座用プリント(一部)

規模の地震が発生した場合、大分県では最大で震度6強の揺れに見舞われ、県南部で7~10m、県中央部から北部で2~5mの津波が発生することが想定されています。しかしながらそのような地震・津波に対する危機意識が十分に共有されているか、備えがなされているかと言えば、我が身を考へても心許ないばかりです。先哲史料館では、これからも防災講座を通して子どもたちが楽しく学びながら、子どもたちのみならずその家族や地域の防災意識を高められるような取り組みを進めていきたいと考えています。

だけでなく、地震発生時に被害を抑えるために当時の人々がとった行動について考えながら、地震・津波発生の際に自分自身にとるべき行動を考えるように展開しています。

- ③では、地域のハザードマップを用いて、校区内の危険箇所(津波の際の浸水区域や土砂災害警戒区域など)や避難場所を子どもたちと一緒に確認しています。また、気象庁HPにある「震度とゆれの状況」を利用して地震発生時にどのようにして自分や家族の生命を守るか、地震発生前にどのような備えができるかなどを考えていきます。

講座を終えると、過去に起きた地震・津波の大きさや被害に関する事実に驚きながらも、過去を教訓にしながら今後起こりうる災害に備えること、講座の内容を家庭や地域でも考えて行くことが大切だと口にする子どもたちの姿が見られました。

3 おわりに

南海トラフを震源とする地震は今後30年以内に70~80%の確率で起こると言われています。過去(宝永地震・安政地震)と同様の

3. 宝永地震—南海トラフの地震—

江戸時代中ごろの宝永4年(1707)10月4日、南海トラフを震源域とする日本最大級の地震が起こりました。大分県でも大きな揺れと津波による被害が出ました。佐伯市米水津の浦代浦では、高台にある養福寺の石段を2段残す高さ(約11.5m)まで津波が押し寄せました。

大きな被害は佐伯の海岸部だけ?

●佐伯の海岸部



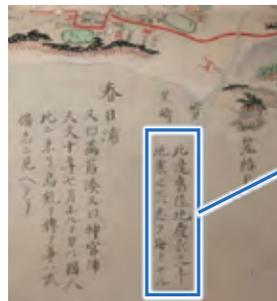
「宝永4年10月4日の午後2時ごろ、南の方で大きな音がして、すぐに大きな地震が起こりました。その後津波が米水津の浦代浦に押し寄せ、一面潮のようになりました。そして他の浦々も津波におそれ、家財や屋敷、畑までも流されてしまいました。浦代浦では養福寺まで潮が差し込んできました。仏や神が守ってくれたのでしょうか、石段を二段残すところまで止まりました」と伝えられています。

「宝永四年高瀬之記録」(個人)

パンフレット「おおいの地震と津波」(一部)

①慶長元年(1596)閏7月の地震

「豊後国志附図(大分郡)」(部分)(1803)



此辺旧陸地、慶長元年地震之災、悉ク海トナル

この辺りは昔陸地で、慶長元年の地震の災害によって、全て海となった

防災講座用スライド(一部)